

## 「ラボ交換型生命医科学研究コンソーシアムの立体展開」報告書

国際教育センター 講師（任期付き）

モリ テツシ

- 滞在研究機関名： LIMES (Life and Medical Sciences) Institute
- 滞在先研究室名： Hoch laboratory
- ホスト氏名： Prof. Michael Hoch.
- 滞在期間： 8月20日 — 9月6日（17泊18日）

### ■ 研究概要・成果

ショウジョウバエにおいて腸内細菌が宿主に対しどのような役割を担っているのか、自然免疫との関係性は未だわかっていない。このような宿主と腸内細菌の相互作用を明らかにするために、私は早稲田大学の竹山春子教授の協力を得て、ボン大学 LIMES の Hoch 教授と様々な研究課題に取り組んできた。本滞在中では、Hoch 教授の研究室で取り扱っている抗菌ペプチドを誘導・高発現可能なミュータントショウジョウバエを用いて、腸内細菌叢の変動および影響を確認するため、腸内細菌の DNA サンプルを取得した。本滞在中により、予定通り腸内細菌の DNA サンプルの取得ができ、帰国後の次世代シーケンサーによる解析の結果から、ショウジョウバエの抗菌ペプチドによる腸内細菌叢の変動や影響となる要因が見いだされた。

### ■ 交流概要

私は平成 24 年度からすでにボン大学 LIMES の Hoch 教授と共同研究を行っており、本年度までは数回にわたり LIMES での短期滞在中を行ってきた。そのため、Hoch 教授の研究室のメンバーとの交流の経歴があり、本滞在中でも今まで築いてきた長い付き合いを深めた。

### ■ 滞在日程

本滞在中はショウジョウバエの腸内細菌の DNA の取得を中心に組み立てていたため、週末の土日を除き、滞在中ではほぼ毎日ショウジョウバエの解剖および腸内細菌の DNA 抽出を行った。

■ その他

滞在期間中では、ちょうど本プログラムで短期滞在する早稲田大学の生命医科学科所属学生数名と過ごす時間ができ、彼らのボン大学 LIMES の各研究室での過ごし方や交流を見ることができた。非常に短い期間で有りながら、研究活動のみならず、本プログラムを通じて、彼らの海外の研究室での経験や交流は彼らの人生にとっても大きな影響をもたらしている事を実感する事ができた。今後、このようなプログラムがより多くの学生が利用できるように期待したいと思う。